

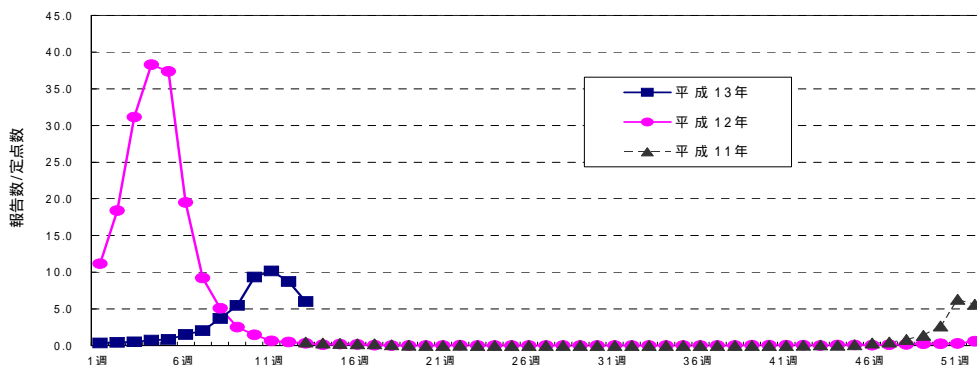
愛知県感染症情報

平成 13 年第 13 週（3 月第 4 週）

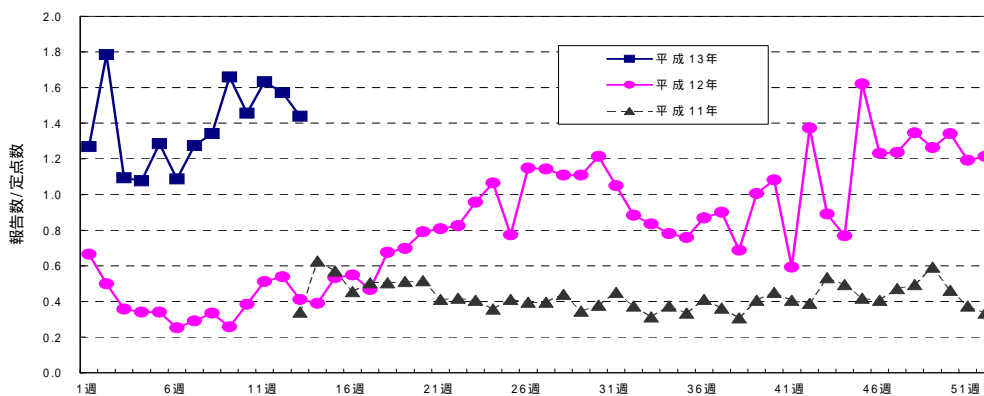
（コメント）

インフルエンザは、報告数は減少していますが依然流行しています。

咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎及び伝染性紅斑は、報告数の多い状況が続いています。



インフルエンザ（名古屋市を含む。平成 11 年は、13 週（4 月 1 日～）から）



流行性耳下腺炎（名古屋市を含む。平成 11 年は、13 週（4 月 1 日～）から）

（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 3 歳女児ムンプス、ワクチン歴あり。

3 月半ばから咽頭結膜熱と思われる児が目立つ。

高熱持続（39 度台が 3～4 日）、咽頭発赤と扁桃膿苔（+）、球結膜充血、鼻閉が強い。この時期には多いと思われ、CRP 上昇する児も多く、入院例あり。

（一宮市 あさのこどもクリニック）

- ・ インフルエンザ A 迅速反応陽性 男 9 名、女 9 名
病原性大腸菌陽性者（O-1 2 歳男 2 名、O-25 41 歳男）

（尾西市 城後小児科）

- ・ インフル・アマンタジン無効でFluA* (+) 例が増えています。麻疹散発しています。ムンプス流行するも減少ぎみ。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

注) FluA* : A型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

● 尾張東部地区

- ・ アデノウイルスによる咽頭炎 , 扁桃炎多く要入院例多し
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ B型インフルエンザもみられます。(5 例) サルモネラ腸炎 (0-7、5 歳女)、咽頭結膜熱 (アデノチェック陽性) もみられます。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ インフルエンザ流行続いています。アマンタジン*¹は幼児での無効例が目立ちますが、成人例は全例有効です。また、タミフル*²も著効です。溶連菌も流行続いています。手足口病が、1 例ありました (1 歳男児)。嘔吐、下痢が再び増加しているように思われます。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)

注) アマンタジン*¹ : A型インフルエンザ治療薬。

タミフル*² : A・B型インフルエンザ治療薬

- ・ インフルエンザ続く。ロタ胃腸炎再び小流行。
(小牧市 小牧市民病院)
- ・ インフルエンザはやっと下火になりました。今月は子供からうつった大人のムンプスが 2 例ありました。1 例は子供の時にもムンプスになったと言っていました。水痘もみられます。ロタウイルスの胃腸炎もみられました。
(春日井市 かちがわ北病院)
- ・ インフルエンザ 香港 A 型が多い様です。
(小牧市 鈴木小児科)
- ・ 1 歳男流行性耳下腺炎による髄膜炎にて入院
(東海市 小児科ハヤカワ医院)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 0-1 9 ヶ月女、1 歳女
ディレクティジェン FluA (+) 2 歳女
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ SSSS (ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群) 1 歳女
(幸田町 とみた小児科)
- ・ インフルエンザ A (4 歳男、38 歳女)
(岡崎市 永坂内科医院)

- ・ インフルエンザ全 16 例中 FlUA (+) 10 例、続発 1 例、臨床診断 5 例、やや下火になったようです。4 月 1 日 (日) が当番医でしたので多くなりました。
(岡崎市 粟屋医院)
- ・ 病原性大腸菌 O-18 6 歳女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ ロタウイルス (1 歳女、2 歳女、1 歳男)
(岡崎市 深田小児科)
- ・ ロタウイルス感染症散発
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ FlUA (+) 1 歳、3 歳、5 歳
(刈谷市 田和小児科医院)
- ・ 水痘 1 歳男児 (母親の帯状ほう疹から感染)、春休みに入ったためか全体に減少傾向です。
(西尾市 山岸クリニック)
- ・ 嘔吐下痢は減少、溶連菌感染症も減りました。アデノウイルスと思われる症例ありました。
(西尾市 やすい小児科)
- ・ マイコプラズマ肺炎 1 歳女
(三好町 三好町立三好病院)
- 東三河地区
 - ・ インフルエンザが流行しています。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

(1 ~ 3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 1 名。

- ・ 田原保健所から報告の 17 歳男。3/25 発病、3/26 初診、3/29 診定。
菌型は、O-157 VT1・2 (+)

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

レジオネラ症患者 1 名。

第 11 週 (平成 13 年 3 月 12 日 ~ 3 月 18 日) の 4 類感染症の全国状況
インフルエンザの定点当たり報告数は第 10 週と比べ増加している。
しかし、週報発行時点 (3 月 30 日) ではすでに患者発生数は減少していることが迅速把握データなどから推察される。また、第 11 週の定点当たり報告数が過去 5 年間の同時期と比較してやや多くなっているが、

これは、今シーズンの流行が例年よりも遅れているからで、定点当たり報告数の最高値は流行の大きかった95年や98年と比較すると、現時点では5分の1以下となっている。流行性耳下腺炎と水痘は、過去5年の同時期と比較して定点当たり報告数がかなり多くなっている。流行性耳下腺炎は福井県で定点当たり報告数8.2、熊本県で4.6、福岡県で4.0となっており、水痘は沖縄県で5.8、宮崎県で5.8と報告が多くなっている。麻疹は例年の同時期とくらべ定点当たり報告数がかなり多く、大分県で2.4、高知県で1.7、熊本県で1.6、福島県と福岡県で1.0となっている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も例年より定点当たり報告数がかなり多い状態が続いており、新潟県で5.7、鳥取県で4.3の報告がある。咽頭結膜熱、手足口病はオフシーズンとしては例年になく定点当たり報告数が多くなっている

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2001年2月23日号（76巻8号）

髄膜炎菌感染症。アフリカ、髄膜炎ベルト（注：サハラ砂漠南縁諸国に髄膜炎菌が常在していて毎年11月末から翌年6月にかけて流行）。本年1月からベニンで流行し患者数603例（死亡45）、昨年末から本年2月にチャド798例（死亡83）、エチオピアで485例（死亡61）発生、地域医療教育とワクチン接種キャンペーン実施中。

2001年～2002年流行期のインフルエンザワクチン組成に関する勧告：今年の冬の北半球で接種するインフルエンザワクチンの組成について最近の流行株の抗原分析から インフルエンザA（H1N1）：世界各国から分離されている。流行株は現行ワクチンのニュ・カレドニア/99と類似。

A（H3N2）：昨年度の状況は世界的に散発だけで大きな流行はなかった。日本、欧米、アジア等で分離されたウイルスはモスクワ/99やパナマ/99（現行ワクチン株）と類似していた。インフルエンザB：昨年度の発生状況は欧州、南北アメリカ、アジア地区で散発的発生がみられただけで、ウイルス学的に大きな変異を示した例はいなかった。現行ワクチン（A H1N1 = ニュ・カレドニア、H3N2 = パナマ、B山梨/98接種後の抗体上昇は良好であった。WHOの勧告としては本年度の流行期ワクチン組成はこれまでの組合せを勧めたい。

インフルエンザ（01年2月）：デンマーク、スロベニア、スイス、ウクライナ。2月にはいって流行中。A（H1N1；ニュ・カレドニアタイプ）とB型。

2月16 - 22日届出疾患：コレラ。ジブチ、ソマリア、ザンビア、南アフリカ、ザンビア、米合衆国（輸入例）、イラン、オマーン。

2001年3月2日号（76巻9号）

ポリオ根絶。アフガニスタン：世界的にポリオ根絶計画が進展しているがアフガニスタンはいまだに野生株ポリオが常在している地域の一つである。ここでは99年 - 00年の状況が報告されている。定期接種：98年における1歳までの定期接種によるポリオ生ワクチン接種率は30%であり、特に内戦の激しい北部諸州では非常に低い。全国一斉接種：ワクチン接種歴の有無と無関係に5歳以下の地区居住小児全員を対象として年4回の全国一斉接種が97年から開始された。接種小児数は増加しているが北部カブル地区のような政治的な問題のある地域では状況は困難である。急性弛緩性麻痺疾患サ・ベイランス：報告地区に偏りがあり（原著に地図あり）問題が多い。患者からのウイルス分離と同定は隣国パキスタンの国立衛生研究所で実施。搬送やウイルス検査室の問題が多い。

国際検疫病の分布：01年3月1日時点における世界全体のペスト、コレラ、黄熱の常在各国の郡（州）単位の一覧表。

インフルエンザ（01年2月）：クロアチア、ギリシャ、ウクライナ、英国。A型。

2月23日 - 3月1日届出疾患：コレラ。モザンビーク、南アフリカ、香港、フィリピン。

桜便りの一覧表が駅に出るようになり、新学期を前に行楽地に出掛ける家族連れで賑わっていますが朝夕は相変わらず冷え込んでいます。いつも貴重な情報を有難うございます。2月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：インフルエンザの発生が小規模ですが各地区でみられています。主流はベッドサイドの迅速テストキットでA型陽性、陽性材料から衛生研究所でウイルスが分離されていて主体はA型（H1N1）で一部B型です。発生状況は地域的小流行や家族内発生、保育所や小中学校の小規模発生で小学生に多く高熱（A型に二峰性発熱あり）、咽頭痛多発、肺炎や気管支炎を合併して要入院の例、熱性痙攣で入院した例、脳症（3歳女児1例と脳症疑い例1例）のご報告もいただいています。（第一日赤有吉先生、国立病院伊藤先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。ロタウイルスを中心とした感染性胃腸炎が相変わらず発生中で脱水から入院を要する例が目立つ地区と峠をこえた地区がありますが、地区によってはロタウイルス陰性者が多いという報告もいただいています（第一日赤有吉先生、国立・伊藤先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。溶連菌感染症、扁桃腺炎、細気管支炎、仮性クループ、感冒後のCRP上昇例、PC耐性肺炎球菌感染症、RSウイルス感染の重症扁桃炎など各種の気道感染症が散発的に発生しています（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。一方、三菱・岩間先生からは病原性大腸菌O1、O18による感染性腸炎の入院例の報告もいただきました。第一日赤有吉先生からは麻疹、千種区今枝先生からはDPT未接種保育園児（3歳女児、6歳女児）百日咳の報告です。今後の流行に注意したく思います。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、ムンプスが多発中で溶連菌感染症が散発中、昭和病院西村先生からはインフルエンザと水痘が発生中でインフルエンザによる熱性痙攣で要入院あり、常滑市民病院上田先生からは咽頭結膜熱、A型インフルエンザ、A群溶連菌感染症が流行中で、咽頭結膜熱やインフルエンザによる発熱・脱水から入院を要する例がかなり目立ちA型肝炎1例、要入院例ではロタウイルス感染症と麻疹の散発あり、とのお手紙でした。

3. 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはロタウイルス、インフルエンザ（AもBも）、時々出現、熱性痙攣もありこれら疾患で入院例が目立つ、知立市近藤先生からはムンプスと水痘が小流行中で高熱3～5日の感冒（インフル陰性）多く、乳児嘔吐下痢症やや多くなり病原性大腸菌O6と黄色ブドウ菌下痢症各1例、刈谷市田和先生からは2～3日発熱する児が多くインフルA陽性者は週あたり7名であったのが2名、水痘と溶連菌感染症散発、碧南市永井先生からはインフルA陽性者は増えているが流行というほどではなく、乳幼児嘔吐下痢症（ロタ陽性例あり）が目立つ、豊橋市宮澤先生からは嘔吐下痢症、インフルエンザ、水痘の小流行ありとのお手紙でした。有難うございました。